

toto 助成を受ける際の準備や留意点のチェックリスト

様々なクラブに共通する一般論として、いくつか洗い出してみましたので参考にしてください。

1. 助成金を受ける前に

□1) 十分検討して慎重に意思決定しましょう

スポーツ振興くじ助成金は言うまでもなく、サッカーくじの収益金の一部からいただいている助成金であり、多くの人々の「思いのこもった」お金なので大切に扱わなければなりません。

身の丈に合わない額の助成金は、地域や組織で不協和音を起こしたり、事務的な対応ができず苦しんだり、自立を阻害することもあるので、十分検討してから慎重に意思決定しましょう。

「足りないから」「もらえるから」と、漠然と助成金を申請することはやめましょう。助成金がなくても、自力で成果を出していける組織・人・ネットワーク、プログラムを揃えることが「自立支援事業」の目的です。この目的の達成に目途がたたない場合は、自立支援事業を受けない方がいいでしょう。

□2) あなたのクラブの「成果」は何ですか？

あなたのクラブが存在し活動を続けることによる「成果」とは何でしょうか。「スポーツ振興」「地域づくり」「人づくり」「子どもの元気」「住民の幸せや笑顔」「世代間交流」「生き活きた高齢者」などは重要なキーワードですが、それが果たしていると何をもって定義しますか。具体的にどのような状態になれば「成果」がでたと言えるのでしょうか。

自立をめざすクラブは、自分達のクラブの活動によって、何の成果を出すのか常に意識して行動する「結果志向」になる必要があります。これにより、人・組織のモチベーションを高め、地域社会から共感や賛同を得ていくことにもつながります。

*参考文献：P.F.ドラッカー「非営利組織の経営—原理と実践—」ダイヤモンド社

□3) 「自立の定量化」はできていますか？

自立支援5年経過後のクラブの姿を描けていますか？

会員〇名（うち新規〇名）、賛助会員〇名（うち新規〇名）、役員〇名（うち新規〇名）、事務スタッフ〇名、指導者〇名、プログラム〇個、ボランティア〇名、外部協力機関〇機関、イベント〇回、使用施設の種類と箇所数、クラブハウスの有無、事業収入〇円、寄付金〇円、事業支出〇円、人件費・一般管理費〇円など、5年経過後の数値目標を出し、自立したクラブのイメージを明確にもつことが重要です。それを達成するために、各年度での事業を考え、毎年達成度を確認しましょう。

※定量化…一般には質的にしか表わせないと考えられている事物を数量で表そうとすること。

2. 人・組織とネットワーク

□4) 役員の役割は明確ですか？

役員（理事会など、総会以外での意思決定メンバー）が「自覚と責任」の意識を持っている組織でしょうか。日々の業務に追われがちなクラブマネージャーだけが孤軍奮闘しても運営には限界があります。自立支援事業を受けることができる最大5年間、役員が率先して経営基盤をつくる覚悟はありますか。

役員がすべきこととして、中長期の計画づくり、資源配分、外部との交渉、ボランティアマネジメント、資金調達などの面で、専門的な知識を吸収し最新情報を得て行動していくことが望まれます。

また、新しい人材に意識して役員に入ってもらい、新しいアイデアをうみ出していく雰囲気づくりも必要です。

□5) 会員から協力を得られていますか？

会員に帰属意識があり、会員からのサポートをどれだけ受けられているかは、クラブの自立指標の1つです。会員に支えられているという「クラブとしての一体感」や「クラブライフの楽しさ」を、意識して創っていくことが重要です。

若い人の参加・次世代の育成、地域での人的循環を促すことに助成金を使いましょう。また、有期限の助成金への理解を会員に促し、収支を踏まえた会費設定の説明も必要になるでしょう。

※toto 助成金では定期的・継続的なスポーツ教室、大会の実施に係る指導者や運営スタッフへの諸謝金、各種研修会事業の開催、総合型地域スポーツクラブ間の連携を図るための事業への参加等を対象事業とすることができるので、それらの事業で若い人の参加を促しましょう。
(平成 24 年度自立支援事業)

□6) 外部から協力を得る働きかけをしていますか？

地域には、様々な小売店や事業所、企業、各種団体、教育機関、医療機関、金融機関などがあります。クラブの活動に協力をしてくれそうな機関との情報交換を日頃から行い、お互い様の協力関係や、同じ目的に向かって活動する協働関係をつくる働きかけを常におきましょう。

助成金を使った市民向けのイベントも、このようなネットワークづくりを意識して行うことが重要です。

3. 広報活動

□7) 全体の戦略をたて工夫して助成金をつかきましょう

広報活動は、会員獲得、クラブの認知・理解促進など、クラブにおいて大変重要な活動です。様々な手法の広報活動を念頭において、広報の全体計画をつくりましょう。

難しいことですが、お金をつぎ込んだ分のリターン（何人から反応があったか、など）を意識することが次の広報活動を効果的に行うことにつながります。SNS などのようにお金のかからない効果的なメディアも今はあります。

また、クラブ名の入ったスタッフジャンパーなどを着用して地域貢献活動をすれば、地域での PR 活動にもなるので工夫してみましょう。

※スタッフジャンパーについては toto 対象経費として計上可能です。
(平成 24 年度自立支援事業)

※SNS…ソーシャル・ワーキング・サービスの略。代表的なものに facebook、mixi などがあります。

□8) 紙媒体広報をスキルアップしましょう

基本的な広報媒体には、クラブ紹介のリーフレットやチラシ、広報紙などがあります。紙媒体は、ネット社会になっても根強い人気のある媒体で、紙媒体での広報活動を行っていないクラブはないでしょう。作成にあたっては、目的別・配布対象者別に作成・配布することも必要です。プログラムの評価と同様に意見を聞きながら、中身を磨き上げていきましょう。

特に一般住民向けには、印象に残る事が大事なので、印刷所にデザイン面も依頼してみたい

かがでしょうか。

□9) ホームページを作成・活用しましょう

助成金の有効な使い方の1つにホームページがあります。更新の仕方が簡単なもので作成しておきましょう。ホームページはクラブの「顔」です。できるだけカッコよく、色合いやレイアウトなどのビジュアルにも配慮しましょう。ホームページからは動画が配信できるので、クラブの内容・魅力をより伝えることもできます。

会員数が増えて業務負担が大きくなったら、HP から各種登録・更新、予約、場合によっては決済もできるような機能を付けておけば、負担を減らすこともできます。

※ホームページ等ウェブコンテンツ作成料（スポーツ情報提供内容に係るコンテンツに限る）は toto 対象経費として計上することができます。また、ウェブサイト管理・運営費については、対象経費とは認められませんが、収支計算書上の対象外経費として計上することができます。（平成 24 年度自立支援事業）

4. 使いみち

□10) 新しい事業や企画に使いましょ

これまで実施していたことに助成金を使っては単に補てんされるだけで、新しいアイデアや自立するための力は生まれてきません。助成金は、実験や調査を意識して、新しい事業や企画を軌道に乗せるために使うものだと考えましょう。

助成金の多くをクラブの通常の経費（クラブが基盤としている継続的な定期教室の指導謝金や会場借損料、消耗品費等）に使うことは、助成金がなくなった後で首を絞めることになりかねませんので注意しましょう。

□11) 指導者・スタッフのスキルアップや研修に使いましょ

自立できる力の源は、「人」です。「人財」のためにお金を投資することが重要です。資格を取る支援や、スキルアップの勉強会のためにお金を使いましょう。

※スポーツ指導者の資質向上を目的とした研修会及び講習会、またクラブ運営のノウハウ等を学ぶための研修会及び講習会への参加料や旅費については toto 対象経費として計上はできませんが、収支計算書上の toto 対象外経費として計上可能です。

また、クラブが主催する各種研修会事業については toto 対象（講師謝金、会場借損料等）とすることができます。（クラブ会員または地域住民が広く参加するものでスポーツを内容としたものに限る）

（以上、平成 24 年度自立支援事業）

□12) 最後に、無理・無駄に満額申請せず、余ったら無理して使わず返しましょう

以上